

実証研究の手順

- ❑ テーマ (なぜ) の決定
- ❑ 命題・仮説の検討
- ❑ 「帰無仮説」の設定
- ❑ データの収集
- ❑ 帰無仮説棄却の判断
- ❑ 理論についての帰納的な考察

21

テーマ(命題)の決定

- ❑ 「○○についての」は避ける
- ❑ 「なぜ...は、××なのか」という問
 - 因果関係の推論

- ❑ 戸塚論文の場合
 - なぜ、投票区ごとに投票率に差があるのか

22

命題とその仮説

- ❑ 命題
 - これからデータで裏付けられるべき因果関係についてのステートメント
 - 「Aならば、Bである」という形式のステートメント
- ❑ 仮説
 - その因果関係のメカニズムについての「仮の」説明
 - まだ裏付けられていないので「仮」

23

命題とその仮説—戸塚論文の場合

- ❑ 命題
 - コスト・ベネフィットの計算の結果として、投票参加が起こる
 - 参加による政治効果を認める有権者が多い地域では、投票率が上がる

24

命題とその仮説—戸塚論文の場合

❓ 命題に対する仮説

- 帰属意識が高いと投票する
- 直接的利害があると投票する
- 投票しやすければ投票する

25

帰無仮説

- ❓ 帰属意識の高さと投票は無関係
- ❓ 直接的利害の有無と投票は無関係
- ❓ 投票しやすさと投票は無関係

ただし、報告論文ではこれらを明示的には書くことはしない

26

データの収集: 作業定義

❓ 抽象概念を作業(データ収集や統計処理)できるように操作すること

❓ 集計データ(eg. 人口統計)

❓ 調査データ

27

戸塚論文の作業定義

❓ 帰属意識

- 県外通勤通学率
- 高齢者人口率
- 持ち家率

❓ 利益誘導

- 地元候補者の有無
- 0/1のダミー変数

❓ 物理障害

- 投票所までの所要時間
- 住宅地図による実測値 4点の加重平均

28

帰無仮説の棄却-戸塚論文の場合

表5

t-値による検討(偶然性の検討)

- およその目安として、 $t > 2$ であれば、偶然の確率は5%以下と考える。

29

理論のレベルと実証のレベル

理論

人は合理的判断に基づいて行動

$$R = (PB) - C$$

実証(具体的な命題)と3つの仮説

実証研究の積み重ねとしての理論

「戸塚研究」は理論の有効性を裏付ける1つの研究成果

30